

私たちのくらしと税
～税金の必要性に気づき、身近な税である消費税について考える授業

石巻市立稲井中学校
教諭 不流 和夫

1 はじめに

税金は、私たちが健康で豊かな生活をするために必要なお金であるが、その必要性を認識している子どもは少ない。収入を得ていない子どもたちも「消費税」という形で税を支払っているが、商品の価格以上に多くお金を支払うことに疑問を持っていたり、税金が何のために集められているかわからず不満を持ちながら支払っていたりする子どもがほとんどである。中学校では3年生で公民の時間に税金について学習するが、なぜ税金が集められるのか、どんなことに税金が使われるのかといった基本的な部分については1年生の段階で学んでおくことも大切であろうと考え、租税に関する学習を設定した。

中学1年生では、奈良時代の律令国家における税の徴収について歴史の授業で学習しており、それらと現在の税を比較しながら考えさせるなどして、税金についての基礎的な知識を身に付けさせたい。そして自分たちも消費税という形で納めている税金が世の中にとって大切な存在であるという意識を持たせたいと考え、今回の授業を行った。

2 生徒の実態

今回の租税に関する授業を行ったのは、私が担任をしている稲井中学校の1年1組30名である。社会科では特に歴史に対する興味・関心が高く、意欲的に発表する生徒も多い。

租税教育の授業をするにあたって、税に関するアンケート調査を実施した。以下はその結果である。

税に関するアンケート（1年1組 30名）

問1	あなたが知っている税の種類を書いてください。
	消費税（26）、所得税（4）、法人税（1）、環境税（1）、国税（1）、住民税（1）、関税（1）
問2	税金は何のために使われていると思いますか。
	学校の教科書。学校を建てる。学校の黒板などの備品。国民のためになるもの。環境保全。町を守るため。政治家の給料。公共の施設を造る。おじいさん、おばあさんに送られる年金。地球温暖化を防ぐ。土地を買うため。恵まれない人々の支援をするため。道路や橋を造る。ごみの処理。市や町の公園などみんなが使うものを造るため。社会を安定させるため。
問3	あなたは税金にどんなイメージを持っていますか。
	どんどん高くなる。子どもの命を救う。国民のためのもの。8%。お金を納める。物を買うときに少し高くなる。公共のために使うのでよいイメージ。政治や会社。払うのが大変。先生たちの給料。大きな災害で被害にあった人々の物資や復興資金に使われているイメージ。
問4	税金について疑問に思っていることは何ですか。
	どうして税金は上がっていくのか。なぜ子どもが払わなくてはならないのか。国はなぜ無駄に税金を使うのか。消費税がだんだん上がっていくのはなぜか。消費税をなぜ10%に上げようとするのか。集められた税金が最終的にどこに集まるのか。なぜ税金は必要なのか。

以上のアンケート結果からも、税についての既習知識は乏しく、ほとんどの生徒が「消費税」は知っているものの、あまりよいイメージを持っていない様子がみられた。ただ、少数ではあるが、集められた税金がどんなことに使われているかを理解している生徒もいたことがわかった。

3 指導にあたって

アンケート結果を見ると、税金の使い道がわからず、なぜ消費税をはじめとする様々な税金が集められているかを知らずに、不満をもっている生徒が多い。生徒が抱く疑問もネガティブなものが多いので、まず、税金の必要性について考えるために「もし税金がなかったら世の中はどうなるのか。」をグループの中で話し合わせたい。また、中学1年生を対象とする今回の税に関する学習は、複雑でわかりにくいものになってしまうことを避けるために、ポイントを絞って授業をするよう心がけ、今後の3年生での公民の学習につなげられるようにしたい。

4 実践計画

時間	学習内容	主な学習活動	指導資料
1	「税」について考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良時代の税について復習する。 ・現代の税について、「もし税金がなかったら、今の世の中どう変わるか。」というテーマをグループで話し合う。 ・話し合ったことを全体で発表する。 ・ある中学1年生の税金についての作文を読んで、まとめを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある中学1年生の作文「僕たちの生活と税金」
2	「税」の種類を知り、消費税について考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から税金の種類について知る。 ・消費税を集めることの良い点と問題となる点をグループで考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「景気と税のしくみ」(荻原博子 監修)

5 実践のポイント

(1) 1時間目 「税」について考えよう。

①本時の指導目標

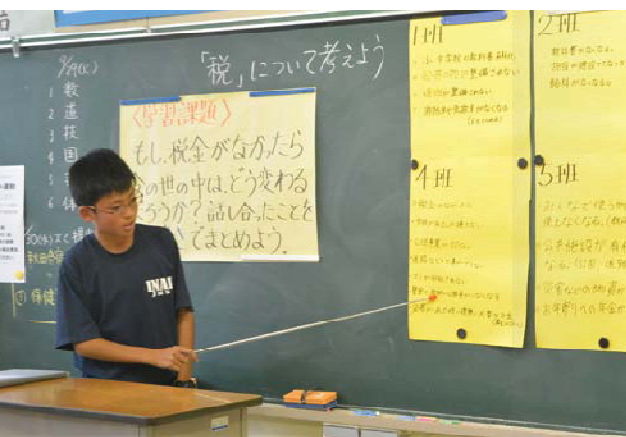
・「もし税金がなかったら、今の世の中どう変わるか。」というテーマでグループで話し合い発表することで、税に関する興味・関心を高め、税金の必要性を理解する。

②本時の流れ

- ・導入…歴史で学習した奈良時代の税について復習し、生徒にとって身近な税である消費税の成り立ちについて知る。
- ・展開…現代の税について、「もし税金がなかったら、今の世の中どう変わるか。」というテーマでグループで話し合い、全体に発表する。
- ・終結…ある中学1年生の税金についての作文を読んで、本時の授業の感想を書く。

③生徒の感想から

- ・最初は「税金なんていないのに。」と思っていましたが、税のことを学んだ今、必要なものなんだなあと深く実感することができました。
- ・税金は国が好きなように使っているだけだと思っていましたが、そうではなく、自分たちの生活を支えてくれているものだということがわかりました。
- ・税金を払うことで公共のものが建設されたり、消防車や救急車が使われたり、自衛隊が活動できることがわかりました。
- ・税金がないと生活することができないなと思いました。税金があるから安全に暮らし、楽しく生活していけるのだと思いました。
- ・今まで税金がなかったら良いのにと考えたことが何度かありましたが、これからは自分も消費税をこころよく支払うべきだと思いました。
- ・税金がなかったら、ゴミが集められなかったり、学校で壊れたものも直してもらえなかったりすることがわかり、とても不便になると思いました。
- ・今までは税金の意味がわからず、「税金で苦しんでいる人がいるのにどうして税金はたくさん集められなければならないのだろう。」と不満に思っていました。しかし、税金の使い道がわかった今、逆に税金がない方が不便で辛い生活になると考えが変わり、これからは社会や自分のために税金をしっかりと納めていきたいと思いました。



(2) 2時間目 「税」の種類を知り、消費税について考えよう。

①本時の指導目標

・税金の種類について知り、自分たちにとって身近な消費税について、グループでの話し合いを通して理解を深める。

②本時の流れ

・導入…消費税以外の現代の税金にはどんな種類があるのか、資料を見ながら理解する。

・展開…「消費税を集めることで良い点は何か。また、問題となる点は何か。」というテーマでグループで話し合い、ワークシートにまとめる。

・終結…税金を集める方法としてどんなやり方がよいか。を考え、ワークシートに自分の考えをまとめる。

③生徒の意見、まとめから

・消費税を集めることで国の収入が増え、国が借金を少なくすることができるが、物を買うのにお金がかかるので家庭の負担は大きくなる。

・物を買うときに必ず支払わなければならないので、多くのお金を集めやすいが、高い物になればなるほど消費税の金額も上がるので、物を積極的に買おうとする人が減ってしまう。

・消費税が一定の割合で決まっているのでみんな平等に税を払うことになるが、逆に収入が低い貧しい人の生活が苦しくなる。

・国の借金が少なくなるのは良いかもしれないが、国民の生活を考えないで勝手に消費税を上げられると困る。

・税金を集める方法ではないが、国が無駄遣いをしなければよいと思う。

・できるだけ働く人を増やせばよいと思うので、長い期間働ける職場を増やしたり、ニートになる若者が減るように働きやすい職場をたくさんつくったりする。

・会社の社長など、お金を持っている人からはたくさん税金を取って、社員など給料が低い人からは少なく税金をとればよい。

・売れている物の消費税を上げて、あまり売れていない物の消費税を下げる。

・酒税やたばこ税を多くした方がよいと思う。

6 実践を終えて (○は成果 ●は課題)

○租税学習をやる前に生徒が感じていた疑問を解決することが多少できた。

○生徒が税金の必要性を感じるようになった。

○今回の学習では、ポイントを絞った内容で授業を行ったが、生徒の発想や考え方にはなるほどと感じさせられるものもみられ、子どもの目線がどのように世の中を見ているかがわかった。

●学校での行事等の関係で自分の担任している学級の実践であったので、今回は学年あるいは全校での租税教育の取組みができなかったことが残念であった。

●今回の授業はグループでの話し合い、意見の交換を中心に行ったが、もともと税金に関する知識が少ない生徒の話し合いだったので、DVDや視聴覚教材等を活用するなどの事前学習を行うべきであった。